

第9学年 道徳科学習指導案

(中学3年)

授業者 北秋田市立義務教育学校阿仁学園

1 主題名 弱さの克服 D-22 よりよく生きる喜び

2 ねらいと教材

(1) ねらい

人としてよりよく生きることの価値について、筆者の気持ちと自分を重ねて考えたり、意見を出し合って考えを深めたりする活動を通して、自分の弱さと向き合うことや支えてくれている人の存在に気付かせ、自信と誇りをもって生きていこうとする態度を育てる。

(2) 教材名

自分を変える力―桃田賢斗（東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の考え方

現代の中学生は、将来への不安や他者との比較、結果重視の社会的風潮などの中で、自分に自信がもてず、失敗や挫折を過度に恐れる傾向がある。こうした中で、生徒が自らの弱さと向き合いながら、それを乗り越えて成長していこうとする力が求められる。思春期にあり、自我が芽生え始める中学生にとって、自分の弱さを否定するのではなく、それを認めた上で前に進もうとする姿勢は、今後の人生を生きるための大きな糧となる。「人としてよりよく生きるとはどういうことか」を自分ごととして考え、他者との対話を通してその考えを深めていくことができると考える。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の生徒は、自己や集団の目標に向かって前向きに努力し、協力し合う態度が徐々に育ってきている。また、これまでの道徳科の授業を通して、夢や目標をもつことの意義や、目標達成に向けて粘り強く努力することの大切さなどについての理解も深まってきている。その一方で、自分に自信をもてない生徒や、自分のよさを見いだせない生徒も見受けられる。また、よりよく生きたいという思いをもちながらも、誘惑に負けたり、継続した努力をすることに難しさを感じていたりする生徒も多い。よって、人間は強さと弱さを併せもっていることに気付かせ、人間は弱さを強さに変える力があるという自信をもって生きていこうとする態度を育みたい。

(3) 使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法

本教材は、バドミントン選手の桃田賢斗選手が、失敗や挫折を味わいながらも自分を奮い立たせ、世界選手権で金メダルを獲得するまでの過程を描いた自伝である。筆者は、高い志をもって社会人強豪チームに入団するも、次第に怠惰な気持ちが芽生え、違法ギャンブルにも手を出してしまう。オリンピック出場権剥奪、無期限の大会出場停止という処分を下された中で、自分の弱さに向き合ったり周囲の環境に感謝したりした経験をもとに再度奮起し、世界一を獲得するという内容である。

本教材で筆者は、二度の挫折を経験している。一度目の挫折では「自分の本質は変わらなかった」と振り返り、二度目は「今度こそ、自分を変えよう。人として強くなろう」と述べている。本時ではまず、筆者がバドミントンで結果を出し始めたころに自分本位な考え方になっていたことに着目させ、人間としての未熟さや弱さに気付かせたい。その上で、筆者が二度目の挫折から立ち上がることができた理由を議論する。自分の弱さに向き合うこと、支えてくれている人の存在に気付くことなど、内なる自分に恥じない、誇りある生き方をしようとする態度を育みたい。

4 学習指導過程

段階	学 習 活 動 (○主な発問◎主発問・予想される反応)	教 師 の 支 援 (【 】の丸数字は「9つの視点」の番号)
導 入 7分	1 アンケートを行い、問題意識をもつ。 Q1：あなたは強く生きていますか。 Q2：「強さ」とは何でしょう。 2 学習問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">人として強く生きるとは、どういうことだろう。</div>	・人のもつ「強さ」に対する問題意識をもたせることができるよう、5択の数直線を用いて多様な意見を引き出す。 【視点①】
展 開 33分	3 教材を基に筆者の「弱さ」と「強さ」を考え、話し合う。 ○筆者が言う「変わらなかった自分の本質」とはなんだろう。 ・勝てば何をしてもいいという気持ち。 ・自分が良ければいいという気持ち。 ◎桃田さんに、みんなと同じ質問（「強さ」って何？）と質問をしたらどう答えるだろう。 A：自分の弱さを受け入れ、乗り越えようとする覚悟。 B：誘惑に負けずに自分をコントロールすること。 C：感謝の心を力に変えること。 4 自分の経験に置き換えて考える。 ○A～Cの中で、自分も同じような経験をしたことはありませんか。	・事前に読ませておいた教材のあらすじを確認する。 ・「プロ選手は結果を出すことが仕事ではないのか」と問い、筆者が抱えていた弱さについて考えを深めさせる。 【視点⑧】 ・筆者が弱さから克服したことに気付くことができるよう、心情曲線を板書する。 【視点⑤】 ・筆者のような強さが自分にもあることに気付けるよう、小さなことであっても成功体験を引き出す。【視点②】 ・ロイロノートを活用し、心情曲線に自分の経験を記入させる。【視点④】
終 末 10分	5 弱さの克服に関する動画を見る。 6 本時の学びを振り返る。 ○今日の教材や動画を踏まえ、どのようなことを感じましたか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(振り返りの例) 弱さを自覚することが強さへの第一歩だと思った。弱さを否定するのではなく、受け入れることで強さに変えていけるようになりたい。</div>	・様々な立場の人の考え方に触れられるよう、tiktokの動画を見せる。【視点⑨】 ・学習を通して感じたことを自然に言語化できるよう、自分の言葉で自由に記入するよう指示する。【視点③】 ・他者の考えに触れ、自分の考えを補完できるように、振り返りをロイロノートで提出させ、全体で共有する。【視点⑥】

【評価】

人としてのよりよい生き方について、筆者と自分を重ねて、自己の弱さに向き合ったり、感謝の心を力に変えたりする強い生き方を考えようとしている。(観察、シート)

5 協議の視点

- ・主題を自分事として考えさせる発問や支援になっていたか。
- ・他者との関わりの中で自分の考えを深められる学習活動になっていたか。